

野津田公園スケートパークの予算の執行を一時とめて、  
市民と話し合う場所を求める請願

請願要旨

町田市の2026年度予算案に野津田公園の湿生植物園（調整池）にスケートパークを建設するための予算（4億9,453万円）が計上されています。

スケートパークは基本設計においては、当初の設計案を破棄し新たに設計をやり直し、設計費用の支出が二重になったり、その規模が第二次野津田公園整備基本計画にある当初案に比べ約2倍の大きさになるなどの問題がありました。基本設計の説明会においても計画の杜撰さ、住民への説明不足などが市民から指摘され、紛糾した経緯があります。

また第二次野津田公園整備基本計画(2014年)の懇談会において提示された市民意見の集約では、野津田公園の自然をそのままに残してほしいとの意見がダントツの一位であり、スケートパークを要望したのはわずか2件でした(第7回懇談会資料2より)。このスケートパークは計画の当初より、なぜ交通の不便なこの場所なのか? 市民と協働で維持し、東京都のレッドデータブックにも掲載されている多様な動植物が生息するなど奇跡的に再生した湿生植物園を潰すのか、時代に逆行しているとの、多くの市民の意見があります。

稲垣新市長は選挙の公約として、「誇れる町田をつくる『10の約束』」を掲げられています。その4に「里山（観光資源）を活かしたシティセールス」があります。選挙用のオフィシャルサイトにおいても「町田の魅力の一つが都市に隣接する里山の存在です。住民や来訪者の憩いの場となる里山を保全しつつ、シティセールスとして活用します。」として町田の豊かな自然や里山の保全を謳っておられ、私たちも共感するところです。

また稲垣新市長は、「『開かれた市役所』を基本姿勢に市民との対話を重視します。市民からの要望に対しては『ゼロ回答（できません）』をなくし、満額回答は難しくとも、代替案や少しでも要望に近づく提案を行い、市民と真摯に向き合うことで信頼関係を築きます」と言われています。

私たちはスケートパークに反対しているのではありません。最近のオリンピック等におけるスケートボードの日本の選手の活躍には目を見張るばかりです。競技人口も増えており、その練習場所の確保は急務と思われる。しかしそれがなぜ、この場所なのでしょう。青少年が利用しやすい交通の便のよいところが適切と考えるのが当然と思われる。

木々に囲まれ窪地のこの場所では維持管理が大変です。作ってから利用者が少ないのでは、環境破壊とともに税金の無駄遣いになりかねません。

最後に、新市長が「今後人口減少が確実に進む中、環境破壊を伴う公共事業は原則行わない方針です」と述べているように、予算をとめて、市と市民が共に知恵を出し合い、互いに汗をかいて、多くの方がよろこぶ計画に変えてゆくことこそ、新しい市政にふさわしいものと考えます。

## 請願項目

- 1 2026年度予算案に計上されている野津田公園のスケートパーク関連予算の執行を一時とめて、本当に適切な場所なのか、代替案を含めて検討する場所を設けてください。
- 2 野津田公園の湿生植物園は、市と市民が協働して湿地が再生できた貴重な場所です。希少な動植物の保全だけでなく、野津田公園全体の環境を保全するためにも必要な場所です。存続できるように検討してください。